

2022年度 個人研究実績・成果報告書

2023年 4月 24日

所属	商経学部	職名	教授	氏名	荒川敏彦
研究課題	マックス・ヴェーバー研究				
研究キーワード	Lebensführung		当年度計画に対する達成度	2.順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が達成できた	
関連するSDGs項目	5. ジェンダー平等を実現しよう	8. 働きがいも経済成長も	3. すべての人に健康と福祉を	該当なし	
1. 研究成果の概要					
<p>(1) 「マックス・ヴェーバーの生活態度論における時間分割」では、ヴェーバーの著名な『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』において、時間を区切るようになる生活態度の在り方が「時間分割」としてくり返し言及されていることに注目し、「資本主義の精神」の形成に関する「時間分割」の重要性を明らかにした。ヴェーバーは、宗教、経済、法、都市、音楽にわたるその浩瀚な歴史社会学的研究において、素朴な実証主義を批判し、無自覚な価値判断の混入を批判し、因果連関を一元論的に説明することを批判した。その上で自らは、天職人／職業人（<i>Berufsmensch</i>）の方法的な生き方・生活態度の形成について、行為の観点から「理念」の作用と（物質的・観念的）「利害関心」の動態の相互連関を視野に解明していった。そのなかでヴェーバーは、中世の修道院にはじまる「時間の分割」による生の一体化および規律化が及ぼした歴史的意義にくり返し言及したのである。さらにヴェーバーの『都市』論を併行して参照することで、教会権力と世俗権力（都市）の時間をめぐる争いから、教会権力と世俗権力（国家）の争いへと局面が移行する過程にヴェーバーが注目し、近世化のプロセスを権力移行過程に注目して重疊的に把握していたことも明らかにした。従来見逃されてきたこれら「時間分割」に関するヴェーバーの指摘は、中世から現在にまでつながる方法的な生活態度への規律化の根源を、理念と利害関心の視点から剔抉したものと言える。ヴェーバーの歴史社会学的分析が、既存の学説や概念を解体し再構成しながら、たえず歴史と世界の見え方を刷新しつづけた意義は大きい。</p> <p>(2) 経済研究所採択プロジェクト「労働観の表象と変遷に関する比較歴史社会学的研究」の一環として、9月30日～10月2日（3日間）に、石見銀山、出雲地域の産業、たたら製鉄関連施設を共同調査した。銀鉱山および砂鉄を原料として鋼を生産したたたら製鉄に関わる施設をまわり、金属生産の技術の発展の歴史、および労働力の編成と管理、労働者の居住区の形成のあり方、鉱山およびたたら製鉄の経営のあり方、産業振興のあり方について実見した。それぞれの地において、現地のガイド（の会長）から懇切な長時間にわたる説明を受け、その理解を深めた。さらに過酷かつ危険な労働に従事した鍛冶師に信仰された金屋子神にかかわる神社をたどった。これらを通じて、古代からの職人集団の社会的地位の変遷およびかかる集団と特定の神々に対する信仰のあり方と社会とのかかわり、その現代における表象について考察する上で貴重な知見を得られた。</p> <p>(3) 2023年3月に、大阪公立大学女性学研究センターにて、「近代ドイツの体育思想黎明期における身体観と男性性——近代体育の父グーツムーツの思想」と題して、啓蒙思想およびフランス革命からナポレオン戦争を経てナショナリズムが高揚していく転換期（18世紀末から19世紀の世紀転換期）に「体育」（<i>Gymnastik</i>）概念を提起して後に「近代体育の父」と謳われるようになったグーツムーツの思想、とくにその男性性をめぐる思想について報告した。フランス革命による身分秩序の倒壊とその後の新たな秩序の形成に伴って、ロックやルソーをはじめ当時の「健康」に関する医学文献などそもそも啓蒙思想に内在していたジェンダー認識が背景から前景へと現れるに至るプロセスが、体育という思想の形成局面に窺えることを、思想内在的に明らかにした。</p>					

2. 著書・論文・学会発表等（査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）

【著書・論文（査読なし）】

荒川敏彦、2023、「マックス・ヴェーバーの生活態度論における時間分割——時を刻むことをめぐる〈理念〉と〈利害〉のダイナミクス」『CUC View&Vision』No.55、4-9頁。

【学会発表等】

荒川敏彦「近代ドイツの体育思想黎明期における身体観と男性性——近代体育の父グーツムーツの思想」
大阪公立大学女性学研究センター・女性学コロキウム、2023年3月。

3. 主な経費

- ・共同調査として島根県に出張し、石見銀山、出雲地域の産業、たたら製鉄関連施設を視察した。
- ・共同研究者との打ち合わせ等のため iPad Air を購入した。

4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

- ・科学研究費補助金・基盤研究(B)：「現代日本社会における呪術的意識と行為をめぐる秩序化のダイナミズムの解明」課題番号：18H00929、2018年度～2022年度（研究代表者）。
- ・経済研究所研究プロジェクト「労働観の表象と変遷に関する比較歴史社会学的研究」2022年度～2023年度（研究代表者）

(本文は2ページ以内にまとめること)